

保護者への対応・保護者との協力・ 保護者への指導

指導のポイント

- ①立場の違いを前提にした学力の意味の共有（再定義）
- ②他人の子を育てることの大切さのコンセンサスづくり
- ③保護者と教師双方の多様性を生かしあう

1 立場の違いを前提にした学力の意味の共有（再定義）を

学力向上における保護者との関係で最も注意すべきことは、学力の意味が保護者によって異なることである。教師の理想は全ての子どもの学力が等しく向上することだが、保護者の関心はわが子の学力。保護者を基準にすれば、学力の尺度は子どもの数だけ必要になる。おまけに、晩婚化により保護者の年齢は高く、男女を問わず職を持つ保護者が多数派のはず。親の経験は浅いが人生経験は教師より豊富な保護者が学校と教師へのクレーマーに転換する率が高い。

トラブルは相互理解のズレから生じる。教師と保護者はもともと立場が異なり、かつてのように教師の都合に保護者が従う社会的条件も失われた。それどころか保護者同士の立場の相違も大きく、その調整も教師の責任になる可能性が高い。このような状況下での相互理解（コミュニケーション）の原則は違いを認めあうことである。

実はこの原則こそ、現在の子どもたちが必要とする学力の再定義のための最重要コンセプトになる。同一地域に居住することのみを理由に集まった多様な人（個性）が、生きる場を共有することで生じるトラブルを処理する能力（人の間づくり）の獲得こそ、子どもたちの学力を高める基盤を育むために最も必要な学習課題である。その役割を担う件が最も整った場こそ学区制に支えられた公立の小・中学校。多様な子どもたちが切磋琢磨して共に学ぶ場を獲得で

きるのが公立学校の特徴だからである。限られた家族のみの家庭、身近に育ち学びあう友を失った地域、特定の知識・技能の教授を目的にする学習塾では準備できない学びと育ちの条件と考える。

2 他人の子を育てることの大切さのコンセンサスづくり

かつて幼稚園の運動会で自分の子どもを主役として写すビデオカメラの商業的があった。実際に自分の子しか見ない保護者がいるのも事実である。しかし、自分の子しか見ていない保護者こそ、わが子の学びを阻む元凶であることを教えるのが教師の役割である。保護者が育てられない子どもの多様な面（隠れた才能）を育ててくれるのが先生とクラスの友だちである。わが子を才能豊かに成長させる鍵は、友だち関係を含むわが子を取り巻く「ひと、もの、こと」環境を豊かにできるかどうかである。

このようなコンセンサスづくりを多様な保護者とのあいだで試みることから、学力向上への保護者の協力を得る基盤づくりは始まる。

3 親と教師双方の多様性を生かしあうこと

教師より保護者が年長になる可能性を避け得ないなら、その条件を活かす保護者との関係を求めたほうが生産的である。

たとえば、保護者にとって教師の若さは、自分たちが望む教師を育てる機会に転換可能といえる。他方、若い教師にとって年上の保護者は、一人前の教師に育ててくれる人生の先輩ともみなせる。

保護者を学級づくりのパートナーにできる教師の明るい謙虚さと柔軟性の発揮が成功の秘訣である。課題は、教師への対抗ではなくよりよい授業ができる条件を整えるために、保護者同士が互いの個性を活かしあう意義を、年長の管理職や保護者の先輩が伝える仕組みづくり。わが子の才能開花環境づくりを大義名分に、学校の常識とのズレを自覚する親をトラブル処理能力（人の間づくり）育成モデルにできるかどうか、成否の分かれ目になる。

（静岡大学教授 馬居政幸）

る子、家の人と学校の出来事を話す子、学校のきまり・規則を守っている子などは、学力調査の結果も高い。さらに親の年収別による子どもの成績格差も顕著になっているという（文部科学省の専門家会議の報告：2009年8月4日〔日本経済新聞〕2009年8月5日付）。

また、一般的な理解として、いじめや暴力行為のある学校、学習の規律や習慣が身につけていない実態、あるいは教師との信頼関係が不十分な状況などでは、子どもの充実した学習は望めない。それは、子どもの全ての発達段階において、教育の本質である「指導」と「学び」の論理が子ども個々の成長に多種多様に連関しているからである。しかも、それらは「教師の教授」と「子どもの学習」に有機的に機能していることを意味し、子どもにも教師にも一体化されるところがあるとする〈教育の原理〉によるものである。

端的に言えば、子どもの〈学力の向上〉には、学校の〈生徒指導のあり方〉が深く関与し、その基盤になっている。ある中学校の校長先生が、「生徒指導がしっかりできない教師は、授業もままならない。この逆は、本校では考えられない。授業に生きる生徒指導が重要」と語った言葉が印象的である。校長先生が意図するところも、学校教育の本質論を語っていると改めて熟考するところである。

*

これらの理解のもと、本書では、「学力向上と生徒指導の関係」を新たな教育課題として問い直し、その方向性や課題解決のあり方を具体的に提案することを目的に企画したものである。

主な構成は、「論点の整理」に始まり、「学びを支える生徒指導」「人間関係づくり」「学習意欲と習慣形成」「学習スキルと学び方」「授業規律と規範意識」「保護者との協力」などの章立てとした。各章の論に学び、学力と生徒指導の論理を再考していただき、これからの学校教育の方向性を展望していただければ幸いである。

平成21年10月

〔編者〕有村久春

はじめに——学びのインフラとしての生徒指導 1

序章 論点整理——学力向上の基盤となる生徒指導

論点1	キー・コンピテンシー（OECD）	8
論点2	文部科学省「全国学力・学習状況調査」	11
論点3	新学習指導要領・「生きる力」の育成	14
論点4	ペアレントクラシーの時代	17

1章 子どもの学びを支える生徒指導のあり方

1	なぜ、学力向上の基盤としての生徒指導が必要か	20
2	発達段階ごとにみる学力向上の基盤としての生徒指導の課題	24
3	学びを支える子どもの好ましい人間関係づくり	28
4	教師と子どもとの信頼関係の確立	30
5	新教育課程における学習意欲の向上と学習習慣の確立	32
6	新教育課程における学習スキル・学び方の指導	34
7	授業規律・授業ルールの確立と規範意識の育成	36
8	保護者への対応・保護者との協力・保護者への指導	38
9	子どもの基本的生活習慣の確立	40
10	学力向上の基盤となる生徒指導体制	42

2章 子どもたちの好ましい人間関係づくり

1	新教育課程における好ましい人間関係づくりとその方法	44
2	温かい雰囲気をつくる学級経営の工夫①——小学校	48
3	温かい雰囲気をつくる学級経営の工夫②——中学校	50
4	人間関係のよさを生かした教科指導のあり方と工夫①——小学校	52
5	人間関係のよさを生かした教科指導のあり方と工夫②——中学校	54
6	道徳の指導で、人間関係をはぐくむ援助の工夫①——小学校	56
7	道徳の指導で、人間関係をはぐくむ援助の工夫②——中学校	58
8	学級活動の展開で、人間関係をはぐくむ援助の工夫①——小学校	60
9	学級活動の展開で、人間関係をはぐくむ援助の工夫②——中学校	62
10	学校の好ましい人間関係づくりのための研修のあり方	64

3章 学習意欲の向上と学習習慣の確立

1	学習意欲を向上させる学習習慣の確立	68
---	-------------------	----

2 発達段階ごとにみる学習習慣の課題……………71
 3 宿題の出し方と家庭学習の指導と工夫……………74
 4 学習習慣確立のための学校HP・学校文書の工夫……………77

4章 新教育課程における学習スキルと学び方指導

〈基本的な学習スキル〉

1 「話すこと・聞くこと・書くこと」を身につける——小学校…80
 2 「伝え合う力」を身につける①——小学校 ……84
 3 「伝え合う力」を身につける②——中学校 ……86
 4 「基礎的・基本的な知識および技能」を身につける①——小学校…88
 5 「基礎的・基本的な知識および技能」を身につける②——中学校…90
 6 「思考力・判断力・表現力」を身につける①——小学校 ……92
 7 「思考力・判断力・表現力」を身につける②——中学校 ……94
 8 「問題解決力」を身につける①——小学校・高学年 ……96
 9 「問題解決力」を身につける②——中学校 ……98
 10 「情報通信ネットワークの活用力」を身につける①——小学校・高学年 ……100
 11 「情報通信ネットワークの活用力」を身につける②——中学校…102
 12 「互いのよさを発見する力量」を身につける①——小学校…104
 13 「互いのよさを発見する力量」を身につける②——中学校…106

〈学習活動と学び方指導〉

14 言語活動の学習の実際①——小学校 ……108
 15 言語活動の学習の実際②——中学校 ……111
 16 小学校の外国語活動の学習の実際——小学校・高学年 ……114
 17 繰り返し学習（ドリル学習）の実際——小学校 ……116
 18 ふりかえり学習（復習）の実際①——小学校 ……118
 19 ふりかえり学習（復習）の実際②——中学校 ……120
 20 見通しをもつ学習（予習）の実際①——小学校 ……122
 21 見通しをもつ学習（予習）の実際②——中学校 ……124

5章 授業規律・授業ルール、規範意識の醸成

1 授業中の規律やルールおよび規範意識の醸成①——小学校…126
 2 授業中の規律やルールおよび規範意識の醸成②——中学校…129
 3 「あいさつ・礼儀」のあり方を学ぶ——小学校……………132
 4 「話し方・聞き方のルール」のあり方を学ぶ①——小学校…134

5 「話し方・聞き方のルール」のあり方を学ぶ②——中学校…136
 6 「間違いや失敗をしても笑わない」ことの意味を学ぶ——小学校…138
 7 「地域社会での活動のルール」のあり方を学ぶ——小学校…140
 8 「地域社会での活動」のあり方を学ぶ——中学校……………142

6章 保護者への対応・保護者との協力

1 新教育課程実施を踏まえた教育方針の示し方①——小学校…144
 2 新教育課程実施を踏まえた教育方針の示し方②——中学校…147
 3 学級懇談会の実際例①——小学校 ……150
 4 学級懇談会の実際例②——中学校 ……152
 5 クレーム対応の実際例①——小学校 ……154
 6 クレーム対応の実際例②——中学校 ……157
 7 問題発生時の臨時保護者説明会の進め方①——小学校 ……160
 8 問題発生時の臨時保護者説明会の進め方②——中学校 ……162
 9 相談事例の対応①——小学校(学業不振,不登校,いじめ,など) ……164
 10 相談事例の対応②——中学校「学業不振になったのは,先生のせい」…166

7章 子どもの問題行動とその子どもの学びへの支援

1 不登校傾向のある子ども①——小学校 ……168
 2 不登校傾向(登校しぶり)のある子ども②——中学校 ……170
 3 長期不登校の子ども①——小学校 ……172
 4 長期不登校の子ども②——中学校 ……174
 5 暴力行為を行った子ども①——小学校 ……176
 6 暴力行為を行った子ども②——中学校 ……178
 7 いじめを繰り返す子ども①——小学校 ……180
 8 いじめを繰り返す子ども②——中学校 ……182
 9 他校の生徒と非行傾向のある子ども ……184
 10 性非行傾向のある子ども①——小学校 ……188
 11 性非行傾向のある子ども②——中学校 ……190
 12 「ケータイ」がらみの悩みを持つ子ども①——小学校……………192
 13 「ケータイ」がらみの悩みを持つ子ども②——中学校……………194

資料 「平成21年度 全国学力・学習状況調査 調査結果のポイント(抜粋)」・196

学力向上の 基盤となる 生徒指導



ISBN978-4-87380-538-2

C9437 ¥2400E

雑誌63015-27

定価(本体2,400円+税)



9784873805382



1929437024009

学力向上の基盤となる生徒指導

〔編集〕有村久春

「どうも子どもが話を聞いてくれない」と悩んでいませんか?



教育開発研究所

学力向上の 基盤となる 生徒指導

「どうも子どもが話を聞いてくれない」と悩んでいませんか?

〔編集〕有村久春(岐阜大学教授)



学びの支えとなる好ましい人間関係づくり、学習意欲と習慣形成、学習スキルと学び方、授業規律・規範意識の育成、保護者対応、問題行動を起こした子どもへの支援など

ヒントになる事例が充実!



教育開発研究所